

河井弥八の人柄

河井弥八の写真は、穏やかでにこやかにほほ笑んでいる写真が多い。彼を知る人の言によれば、河井弥八の人柄そのものが映し出されているという。河井弥八が掛川の自宅に帰って来た時にも、家人や使用人に対しても、いつも物静かで、穏やかな物言いで、声を荒げたりする姿は見たことがないという。

河井弥八の人柄や生き方は、報徳社社誌「報徳」の『河井弥八先生追悼誌』号で窺い知ることができる。

河井弥八と深く関わった人たちは、次のように評している。

- 温和にして、しかも確たるバックボーンが一貫してあった人。
- 誠に品格のある有徳のある後仁であった。
- 先生の真骨頂は勤儉推譲の報徳の最高の具現者であった。
- 高潔な人格と、謹厳、清潔な性格は、誠に報徳道の真の実践指導者であった。
- 先生のお供に私になった時、鞆持ちの役目だが、先生は決して他人に鞆や持ち物を持たせなかった。下手にまごつくと、こちらの荷物を先生に持たせる危険性さえ・・・。
- 先生は温厚篤実にして、上に忠に下に憐れむの心、常人に卓越する人。
- 河井弥八の関わった河川改修工事終了に際し、『河井弥八翁頌徳碑』として、碑を建てようと伺ったら、先生は個人の称讃となることを喜ばれず、自ら筆をとって『有備則無患』と揮毫して下さった。
- 先生は、実に温厚謙虚、人に接する態度は、実に春風駘蕩たる有様であるが、内には剛毅果断、一度決断した事は断固として実行せられた。
- 先生は業績偉業よりも、他に求むることのできないお人柄であった。いつ接してもあの和やかな円満な温容さ、怒らず騒がずのあの態度、言語、又人を差別的に扱わず、心からなる温情、無限の感化力は、先生の御人格のいたす所。

等と述べられている。

温和でにこやかな写真の内には、河井弥八の人格の全てが凝縮されて、その表情となって表れている。



文化財保護委員長の河井弥八